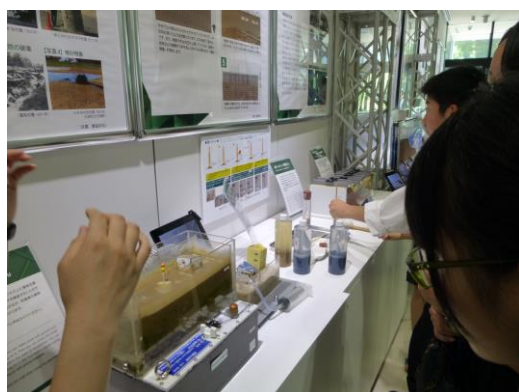


研究室訪問(名古屋大学 工学部)

6月18日(土)に名古屋大学 工学部の研究室訪問を実施しました。水谷法美先生に名古屋大学工学部についての紹介と、土木系の分野についての講義をしていただきました。1年生25名が、津波や高潮のメカニズムや予想される被害について学び、減災館で熊本地震の揺れを体感したり、造波水槽を用いて周波数による波の変化を調べたりしました。



生徒の感想（一部）

- ・工学の社会における役割や津波のメカニズムについて学んだ。地学が好きなので津波についての説明や実習はとても興味があった。ますます地学が好きになった。南海トラフ地震が発生した時の揺れを見てショックだった。これから防災についてもっとしっかり考えていきたいと思った。
- ・10年、20年先を目標とし、未来を支える仕事であることを聞いて、津波などの天災から未来の人々を救える可能性があることに興味をひかれた。教育が人を育て、その中の人々が工学に携わり、それが未来の人や物、環境を救うのは教育が原点となっているので日々の数学・理科、その他の教科の意味を知れてよかったです。
- ・工学部は就職率が高く、職業の選択肢も豊富だとわかった。津波に関する講義の中で、堤防は高潮用がほとんどであることや、津波に関する技術の歴史が知れて、自分にはなかった知識が培われた。
- ・波は運動が伝わっているだけ、というのがとても興味深かったです。大学の説明などもしていただき、とても役立つ情報ばかりでした。土木は橋などを作るだけでなく、社会を作っていくということ聞き、おもしろい学部だと思いました。